

「どうぶつ音楽会」実施レポート

・事業名称 「どうぶつ音楽会」～どうぶつの音楽が奏でる、台東区の音ものがたり～

・実施日時 2025年11月9日(日)15:00-15:50

・実施場所 東京文化会館 小ホール

・事業概要及び入場者数等の実績報告

本公演は、音楽とダンスを融合したパフォーマンスを通じ、子どもから大人まで幅広い世代が芸術に親しむ機会を創出することを目的として実施いたしました。台東区にゆかりのある動物や地域文化を題材に、演奏者とダンサーが対話的に展開するステージ構成とし、子どもから大人までが楽しんで鑑賞できるプログラムといたしました。楽曲は「証城寺の狸囃子」「七つの子」「南部牛追唄」などの古くからの名曲、「ペンギンカタログ」「たぬきつつりん」などの現代の楽曲を、地域性を織り交ぜて構成し、曲ごとに動物のキャラクターや物語性が立ち上がる演出を行いました。また、子どもたちのギャン泣きOK、途中入退場OK、声を上げても動いてもOKとし、親子連れでも気軽にご来場いただける環境づくりを重視いたしました。

入場者数：一般 239名、0歳から小学生まで 181名、応援 6名 合計 426名

・事業の反響(参加者や入場者等からの反応、事業実施による効果等)

・来場者は予想を上回り、多様な世代が参加しました。特に乳幼児連れの来場が多く、子ども向け公演のニーズの高さが確認出来ました。

・音楽とダンスを組み合わせることで、視覚・聴覚の双方から作品世界に入り込めたとの評価が多く寄せられました。

・地域文化や動物を題材とした構成により、台東区の地域性を再発見する機会となりました。

・「子どもが集中して観ていた」「産後で一番楽しかった」「地域の物語とアートを結びつける企画が良い」「また来年もやって欲しい」など、好意的な意見が多数ありました。

・東京文化会館との協働も進み、今後の継続的なネットワーク形成につながる基盤が出来ました。

・事業実施後の感想及び反省点

本事業を通して、多様な世代の来場者が芸術文化に触れる機会をつくれたことに大きな手応えを感じました。特に、子どもや子育て世代から寄せられた前向きな反応は、今後の創作や地域連携の励みとなりました。一方で、広報のタイミングや当日の運営動線など、さらに改善できる点も見つかりました。また、より良い作品創りのために、舞台美術や演出面の精度向上、リハーサル体制の強化など、改善すべき点も明確になりました。今回得た知見を踏まえ、創作プロセスの質をさらに高めることで、より深い鑑賞体験を提供できるよう努めてまいります。

・クレジット

台東区芸術文化支援制度対象企画「どうぶつ音楽会 2025」

～どうぶつの音楽が奏でる、台東区の音ものがたり～

監督、作曲：小出稚子

演出、振付：山本 裕

サクソフォン：植川 縁

鍵盤ハーモニカ：小出稚子

打楽器：高口かれん

ピアノ：木村菜津子

うた：さとうじゅんこ

ダンス：船木こころ、山本 裕、小倉藍歌(NEphRiTEdance company)

記録写真：金子愛帆

記録映像：宮澤良輔(umProduction)

制作マネジメント：浅賀晴子

主催：どうぶつおんがくたい、山本 裕&Honey→B

助成：公益財団法人全国税理士共栄会文化財団

※令和7年度台東区芸術文化支援制度対象企画

・記録写真



